

6月 「梅雨」 大雨に備えて(1)

日本列島は西の地方から順に雨季を迎えますが、関東甲信地方では6月8日が梅雨入りの平年日です。これから7月中旬の梅雨明けまで長雨の季節が続くこととなります。

長期予報によると、今年の6月は平年同様に曇りや雨の日が多く、降水量は平年並、気温は平年並か高いと予想されています。

日立の気候表 ※1971～2000年の平年値

	5月	6月	7月
平均気温℃	16.1	19.1	22.9
降水量 mm	160.6	169.4	142.4
日照時間	174.7	114.7	136.2

雨は私たちの暮らしに欠かせない水を与えてくれる天からの恵みですが、雨のもとになるのは水蒸気、空気中に含まれる水蒸気量は、気温が高いほど多く含むことができるため、冬よりも夏の方がまとまった雨が降りやすくなります。雨や雪・あられなども含めて雲から落ちてくる降水量は、mm（ミリメートル）単位の深さで表します。1mmの雨が6畳（約10㎡）に降れば、約10リットルの水の量になり、100mmの雨の場合は約1トン（ドラム缶5本分）にもなります。

梅雨前線や台風・低気圧は、時には集中豪雨や大雨をもたらし、河川の氾濫、山崩れ・がけ崩れなどの災害を起こし、私たちの暮らしや生命に危険を及ぼします。日頃から大雨災害への知識を身につけておくことが大切です。

今号では、「雨の強さと降り方」についてお知らせします。

（気象庁資料より抜粋）

1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	屋外の様子	災害発生状況
10～20mm	やや強い雨	ザーザーと降る	地面一面に水たまりができる	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20～30mm	強い雨	どしゃ降り		側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	道路が川のようになる	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要
50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすく、多くの災害が発生する
80mm以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる		雨による大規模な災害の発生のおそれが高く、厳重な警戒が必要

日立市の天気予報はホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso>

電話での問合せは直通電話 22-5520 へどうぞ